

右？ 左？

中野 不二男

ヘリコプターのローターの回転方向は、ヨーロッパ製の機種の場合、操縦席から見て時計回り（つまり右回り）。アメリカ製はその逆で、反時計回り（左回り）になっている。何故そうなのか、と聞かれたら「わかりません」としか答えられない。

ならば航空機のプロペラやジェット・エンジンもヘリと同じかというところ、これがちがう。ヨーロッパ製（たとえばロールス・ロイス社等）は、エンジン本体の後部から見て反時計回り。アメリカ製（ジェネラル・ダイナミクス社等）なら時計回りになっている。ついでに日本も時計回りである。

こういう話を誰かにすると、かならず話題の連鎖がはじまる。まずはクルマの右ハンドルと左ハンドル、馬車の左側通行と右側通行。そして講釈と風呂敷の広げ合いだ。一般に御者は右手で鞭を振るから、右側を空けておきたい。だからイギリスでは馬車は左側通行、御者も右側に座っていた。それがクルマ文化に受け継がれ……「じゃあ、アメリカは？」、「「歩行者の場合は？」で、エスカレータの立ち位置の、関西と関東のちがいに話がいたると、連鎖反応は振り出しにもどるのである。

どうして右文化と左文化にわかれるのか、たしか

なかの ふじお／1950年生まれ。科学・技術ジャーナリスト。宇宙航空研究開発機構（JAXA）招聘研究員。工学博士。1978年渡豪、シドニーのエンジニアリング会社技術部勤務のかたわら、連邦政府の委託・研究費援助のもとで、アボリジニーに関する調査研究をおこなう。1982年に帰国し執筆活動に入る。著作は『アボリジニーの国』（中央公論新社）など多数。

に不思議だ。江戸時代の日本では、右側通行だったという話もあるが、東海道五十三次に描かれている光景は、ほとんどこちゃこちゃとしか思えない。京都・三条大橋は右側通行のようにも見えないが、庄野や岡部、掛川の図は、左側通行だといわれても不思議ではない。武士の刀の鞘がぶつかるから、左側通行だったという話はよく耳にするが、伝統性を重視する剣道では、ふつう左側ですれちがう。つまり右側通行ということになる。

結局のところ、むかしはそれほどこだわりがなかったのではないだろうか。そういえば、ポンペイ遺跡の石畳に残る馬車の轍も、車道の真ん中だったように思う。ならばジェット・エンジンの回転方向の、イギリスとアメリカのちがいは、どう説明づけられるのか。エンジン開発の現場技術者に聞いてみた。

「両国文化の、意地の張り合いですよ」
なるほど……。しかし自国の文化を考えると、やっぱり気になる。神社の参道は、真ん中が神様の通り道だ。そして手水舎（てみづぐら）はふつう左にある。ということは、日本は古来より左側通行だったのか……。また振り出しにもどってしまった。



目次
MAY 2008
月刊みんぱく 5

- 01 エッセイ 世界へ世界から
右？ 左？
中野 不二男
- 02 みんぱくインタビュー
開館三〇周年、
そしてこれから(2)
韓 敏
飯田 卓

- 08 モノ・グラフ
熱帯地方で重ね着するヘレロ
池谷 和信
- 10 地球ミュージアム紀行
向き合うふたつの博物館
—公共空間の共有をめざして
野林 厚志
- 11 表紙モノ語り
ワリス
葫蘆絲
陳 天璽
- 12 みんぱくインフォメーション
- 14 万国津々浦々
出稼ぎから学ぶ
南 真木人
- 15 時論・新論・理想論
生きたものへの執着
川口 幸大

- 16 外国人として生きる
写真家として日中間を生きる
—中国帰国者三世・高部心成さん
南 誠(梁 雪江)
- 18 歳時世相篇
②メーデー
ウーイー
中国の五一国際労働節
韓 敏
- 20 生きもの博物誌
精霊に捧げ食べる
佐々木 史郎
- 22 フィールドで考える
「書く」のは誰？
太田 心平
- 24 みんぱく ウィークエンド・サロン
研究者と話そう
次号予告・編集後記